

日本経済新聞社がまとめた東京都内の主要18ホテルの4月の平均客室稼働率は88・6%で、前年同月に比べて0・7%低下した。花見を目当てにした訪日外国人客が多かったもようで、ほぼ満室とされる80%を上回った。ただ、稼働率の低下は3カ月連続。客室料金の上昇も影響しているもようだ。

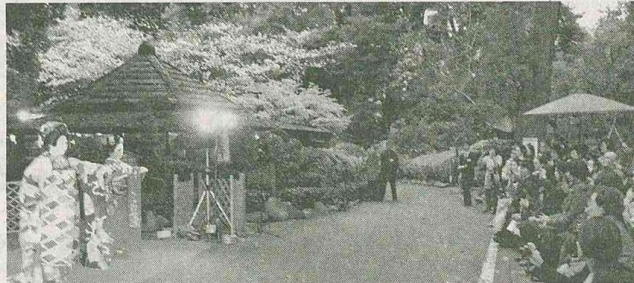
4月の稼働率は上昇、低下とも8ホテルずつで、2ホテルが横ばいとなった。90%を超えたのは、ホテルオークラ東京(港区)など13ホテルに達した。

ホテル稼働率 高水準でも低下

都内4月
88.6% 料金上昇が影響

桜の花見は欧米やアジアからの訪日客にも人気が高く、4月の稼働率を底上げしている。日本庭園のあるホテルニューオータニ(千代田区)は、園内で桜と日本文化を体験できる催しを開催。個人の外国人宿泊者が15%増えた。

パレスホテル東京(同)は92・1%と0・8%上がった。フォーブス誌が手掛けるホテル格付けで最高位を勝ち取ったのを追い風に、「海外からの富裕層客が増えている」



(パレスホテルの荒牧幹人社長)。

ホテルニューオータニでは、桜と日本文化を楽しむ催しで訪日外国人にアピールした

品川プリンスホテル(港区)は24時間営業のレストランを4月1日に刷新した。早朝の食事提供で、空港に向かう外国人客の使い勝手をよくした。改装効果を追い風に外国人比率は36・7%と1・9%上がった。

一方、訪日客の旺盛な需要を追い風に客室料金を上げるホテルが増え、稼働率低下につながり始めている。

帝国ホテル東京(千代田区)は、86・5%と2

・8%下げた。旅行会社や予約サイトを通じて販売する廉価な宿泊の提供を抑えており、富裕層が多い会員組織以外の日本人が減った。

大阪市内の主要ホテルの4月の客室稼働率は91・2%と1・4%の低下となった。マイナスは2カ月連続。

4月に発生した熊本地震で都内のホテルでも当初、海外からの団体客の予約キャンセルなどがあった。ただ、直近は「(予約への)影響はあまりない」(帝国ホテルの宮新明明取締役)との声が増えている。